

# 生ごみ堆肥はどう使えばいいの？

堆肥化が済むと、いよいよ庭や畑あるいはプランターに入れて使う段階になります。具体的にどのくらいの量をどんなふうに使ったら良いのでしょうか。ダンボール箱利用の堆肥と密閉式容器利用の堆肥について、使い方をまとめました。

## ● ダンボール箱生ごみ堆肥を使ってみよう！

### 1. 堆肥はどれくらい施せばいいの？

- 畑の場合:1㎡あたり3~5ℓ(坪当たり9~15ℓ)
- プランターの場合:土の量の10~15%

### 2. 堆肥はどのように施せばいいの？

- 葉菜類(小松菜、ほうれん草など)の場合・・・全面施肥。  
あまり入れすぎない。入れすぎるとアブラムシが発生しやすくなります。
- 果菜類(トマト、ナスなど)の場合・・・全面施肥+(植穴施肥)+(株元施肥)  
畑や苗の状態を見ながら施肥します。



黒土のみ

堆肥10%

**全面施肥**：土の表面に施肥し、軽くすきこむ。

施肥して1週間~10日位たってから播種、苗植をする。

**植穴施肥**：苗を植える穴に一つかみ程度を入れ、土を3cm位かぶせ、その上に苗を植える。根に堆肥がふれないようにする。

**株元施肥**：追肥する時には、苗の株元の表面に1~2つかみ程度施肥する。



## ● 密閉式生ごみ堆肥を使ってみよう！

### 1. 畑の場合

- ・幅10cm程度の溝1mあたり処理した生ごみを2kg程度混ぜます。  
(容器一杯分を4m程度の溝を掘り混ぜ込む)
- ・土質により分解され易い深さの目安は、砂質土で40cm、粘性土で25cmほどです。
- ・処理した生ごみは、砂質土では10~40cmの範囲、粘性土では5~25cmの範囲に少しずつ撒き、土とよく混ぜ合わせ、更に上に土を被せます。
- ・砂質土の場合は特によく踏み固め、粘性土の場合は軽く踏み固めます。
- ・EM活性液を散布するとより良いでしょう。



### 2. プランターの場合

- ・水はけの良い市販のプランター用の土を使います。  
(畑には向いていてもプランターでは水やりによって土が締まってしまうため)
- ・処理した生ごみ1に対し、土を4以上混ぜます。
- ・底部に排水用の大きめの赤玉土を敷き、その上に処理した生ごみと土を混ぜたものを入れ、表面を押さえつけます。
- ・表面にEM活性液をじょうろで散布します。
- ・ビニールや段ボールなどでフタをして、2週間ほどおきます。  
(早く植え付けをしたい時は、肥料効果は少し減るが、2~3日毎にかき混ぜると分解が早まる)
- ・生ごみの姿が見えなくなったら植え付け可能です。

